

特別展

菊池寛賞受賞記念

染司よしおか 吉岡幸雄

日本の色

千年の彩展

平成23年7月9日(土)～8月28日(日)

東大阪市民美術センター

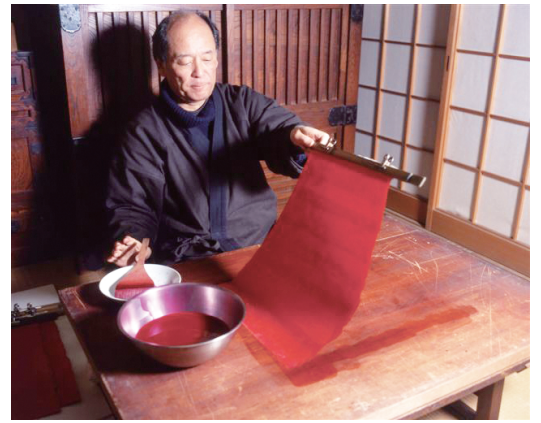
主催:東大阪市 協力:染司よしおか/紫紅社

菊池寛賞受賞記念

染司よしおか 吉岡幸雄 日本の色 千年の彩展

染司よしおかは、江戸時代の文化年間に吉岡という屋号で染屋をはじめられましたが、そのころは現在のような化学染料はなく、植物の樹皮や実、根などを煎じながら色素を汲み出して染めていました。そして三代目となった明治20年頃には、ヨーロッパから輸入された化学染料が、当時の最先端技術と理解されて、手間のかかる植物染料での技術は急速に姿を消してゆきました。

四代目吉岡常雄氏は、正倉院宝物をはじめ、古代の染織品の研究を契機として、大学の教壇に立たれながら、もう一度植物染料に還ろうとされましたが、当時学生であった当代吉岡幸雄氏も、天然染料や染織品の調査のために国内外を旅し、その手と眼で多くのことを記憶されたのです。氏は、一時出版編集の世界に入られますが、五代目として家業をつがれることになった時、一切化学染料を使わない伝統的な植物染だけに徹することを決意されます。そしてそれは同時に、商売としての染の仕事が続けるのではなく、我国の自然の中で生まれ受け継がれてきた日本人の、衣食住の根本に立ち返るということでもあったのです。



東大寺 伎楽

本展は、東大寺、法隆寺、薬師寺、蓮華寺等の祭事に用いられる様々な衣裳・装束をはじめ、石清水八幡宮の「花神饌」や、「源氏物語の色」シリーズ、襲の色目、実際の植物染の原料などによって、吉岡幸雄氏の仕事の一端を紹介するものですが、平成22年秋、JAXA「はやぶさ」プロジェクトチームらとともに、第58回菊池寛賞を受賞されて以降、初めての本格的な展覧会として、各方面の注目を浴びると思われま

す。自然染料の深い味わいは、我々の心に静かに深く沁みいつてくるような心地が致しますが、それはきっと、わたくしたち日本人の魂の奥底に眠る古代の色への憧憬が甦っているのでしょう。

本物の人が生み出す本物の世界をごゆっくりお楽しみ下さい。



東大寺 伎楽装束



青空に映える幡



藍染



ペニバナ



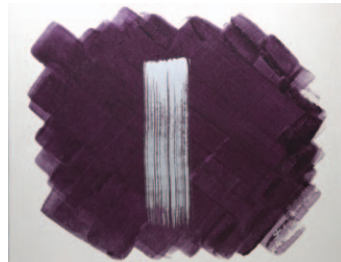
奈良東大寺二月堂「椿造り花」 練行僧の手によってお水取りに用いられる椿の花が作られる。



桜の細長「源氏物語」若菜上



絹織地双鳥文多色夾纈染幡



紫とプラチナ泥の美



藤の襲「源氏物語」桐壺

東大阪市民美術センター

〒578-0924 東大阪市吉田6-7-22
☎072-964-1313 FAX 072-964-1596

休館日 毎週月曜日(但、7月18日は開館。19日休館)
開館時間 午前10時～午後5時(入館は16時30分まで)
入館料 一般500円(中学生以下・65歳以上・障害者手帳等を所持の方は無料)

主催:東大阪市 協力:染司よしおか/紫紅社



【記念講演会】

平成23年7月24日(日) 午後1時30分～3時

講師:吉岡幸雄先生(染織史家) 演題:日本の色について

記念講演会参加ご希望の方は、往復葉書に住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、美術センターまでお申し込み下さい。葉書1枚で1名のみ有効。定員80名。応募者多数の場合は抽選となります。7月12日消印有効。なお講演会参加は無料ですが入館料が必要です。

【吉岡幸雄先生によるギャラリートーク】

平成23年7月9日(土)、10日(日)、30日(土)、8月13日(土)、28日(日)
いずれも午前11時と午後2時

ギャラリートーク参加ご希望の方は、当日会場へお越し下さい。
なおギャラリートークは無料ですが入館料が必要です。